

上越市創造行政研究所
平成 19 年度 活動報告書

平成 20 年 8 月

巻頭あいさつ

分権社会における組織内シンクタンクの役割とその必要性

上越市創造行政研究所所長 戸 所 隆



上越市創造行政研究所の平成 19 年度 活動報告書をお届けします。

当研究所は、平成 12 年 4 月の設立以来、市政の抱える重要課題を対象とした様々な調査研究や担当課の業務支援を行ってきました。中でも新市建設計画や上越市第 5 次総合計画（改定版）の策定支援は、研究成果を総合的・体系的に反映する機会となり、大きな役割を果たしました。平成 19 年度は、その総合計画の策定作業に携わりつつ、次のステップを見据えた基礎的な研究に着手した 1 年であり、研究所にとって節目の年としての報告書となります。

私は 35 年間の大学教員の経験と数年間の大学経営にかかわった経験から、研究所には自らの研究成果とその反省を含め、活動報告書の発行が必要と考えてきました。そのため、一昨年、上越市創造行政研究所の所長に就任した際、研究所の活動の全体像を誰にも分かりやすくお知らせし、かつ、記録として残す活動報告書第 1 号を創刊しました。創刊号では、1 年間の研究成果記録とともに、研究所創設以来の活動記録も簡単にまとめて掲載しています。本書は平成 19 年度に研究所員が日夜を問わず研究所の使命を果たすべく努力した記録としての第 2 号です。

市役所における組織内シンクタンクの使命は何か。これは研究所員が常に意識しつつ行動しなければならない命題と言えます。研究所では次のように考え、この 1 年間職務に励んできました。すなわち、市長部局の業務の多くは、目先の問題解決や定型化した事務処理に追われています。そのため、短期的な視点での地域経営には優れた能力を発揮できても、長期的な視点に欠ける懸念があります。長期的視点に欠けていても、成長モデルが明確であった高度経済成長期や中央官庁が長期ビジョンに基づき主導した時代には、問題になりませんでした。しかし、分権社会となり、それぞれの地域が地域資源を活用しつつ地球規模での地域間競争の中で生き抜かねばならない今日にあっては、10～20 年先から見た地域の姿を想像し、市民が共有し地域づくりの目標となるべき地域像を形成し、その実現を目指した地域経営が重要になっています。研究所の使命はまさにそれを見だし、主導することにあると考えています。

研究所が各部局の「よろず相談所」には決してなれません。行政課題は多様化・複雑化しており、各部局の専門職員に解決できない目先の問題すべてに、専任職員 5 名の研究所では対応できません。長期的視点から問題解決への一定のアドバイスはできても、日常的にコンサルティング業務をすることは本来の職務とは言えないでしょう。そうした視点から言えば、平成 18、19 年度に研究所員が協力

してきた総合計画の策定は、研究所が知恵を出さねばならない仕事といえます。新しい総合計画が完成しましたが、研究所としては常に 10～20 年先から上越市を見るように努力し、次期総合計画の策定に備えていきたいと思っています。

長期的視点から今日の上越市を見たとき、新幹線開通による空洞化を避け、日本海沿岸中核都市としてのステイタスをいかに築くかが重要課題となります。例えば、平成 24 年の北関東自動車道全線開通によって、常陸那珂港と直江津港を結ぶ新たな日本列島横断物流ルートができます。現在、環太平洋貿易に増して環日本海貿易が活発化しています。そのため、新しい動きを活用した産業の高度化や直江津港の活性化で上越市の中心性を高め、新幹線の活用に結び付けることが求められます。そうした視点から直江津港振興に関する研究も開始しました。また、時代の変化に対応した都市構造・交通体系・行政組織や安全安心のための危機管理の在り方に関する研究もこれからの課題となると考えています。

そのためには研究所員の研究力量を高める必要があります。そこで本年も日本地域政策学会にて研究所員が報告を行い、学会誌に上越市に関する 2 つの論文が掲載されました。これは上越市の PR にも役立っていると自負しています。

本書を通じて関係各位が研究所への理解を深められ、上越市民の生活向上のための政策立案に役立つことを祈念します。

(高崎経済大学地域政策学部教授)

平成 20 年 8 月

上越市創造行政研究所 平成 19 年度活動報告書

目次

平成 19 年度事業概要	5
上越市第 5 次総合計画（改定版）の策定	8
村格・都市格の形成（郷土への誇りを育てるまちづくり）に向けた推進方策調査	20
持続可能な都市構造の構築に向けた調査研究	28
- 上越市が保有する主な社会資本の将来コスト -	
直江津港をいかしたまちづくりに関する調査研究	34
- 広域的な視点から見た直江津港のポテンシャル -	
研究交流活動報告	39
担当課からの報告	41
歴史的建造物の保存と活用に関する調査とその後の展開	42
- 歴史的建造物を活かした高田市街地活性化の取組経過 -	
上越市自治・地域振興課 主任 石黒 厚雄 （前 歴史・景観まちづくり推進室）	
上越市第 2 次環境基本計画の策定	62
上越市環境企画課 係長 柄澤 幸一	
研究員レポート	73
中越沖地震を教訓とした都市経営 - 危機管理の在り方 -	74
上越市創造行政研究所 所長 戸所 隆	
ビジター産業を活かした上越市直江津中心市街地の再生	86
上越市創造行政研究所 主任 野崎 隆夫	
都市部と農村部の共生で成り立つ広域合併都市・上越市経済の再構築	94
上越市農業振興課 主事 櫛笥 千恵 （前 創造行政研究所）	
上越市創造行政研究所の概要	101

